

令和8年4月2日
北海道開発局

北海道開発局コンプライアンス第三者委員会
議事概要について

(概要)

標記委員会について、以下のとおり開催されましたので、お知らせします。

(開催日)

令和8年3月12日(木)

(開催場所)

札幌第1合同庁舎15階 北海道開発局特別会議室(web会議併用)

(出席者)(敬称略)※はweb出席

委員長	向田 直範	北海学園大学名誉教授	学園法律事務所	弁護士
委員	飯田真奈美	政池・飯田法律事務所		弁護士
	池田 裕一	池田裕一公認会計士事務所		公認会計士
	佐藤 大輔	北海学園大学大学院経営学研究科	経営学部	教授
	谷口 勇仁※	中京大学経営学部		教授

北海道開発局

遠藤局長、佐竹次長、竹原首席監察官、梶本開発監理部長、
岡下事業振興部長 ほか

(局長挨拶)

北海道開発局では、過去の不適正な事案に対する再発防止の対策に取り組んでいる。すべての職員がコンプライアンスを自分事として捉えられるよう、実践的な取組を進めていくことが大変重要であると考え、コンプライアンス推進計画を作成し推進を図っている。来年度の推進計画案をお示しするので忌憚のない御意見をいただきたい。

(議事概要)

- 事務局から「令和7年度コンプライアンスに係る職員アンケート結果について」、「令和7年度北海道開発局コンプライアンス推進計画に基づく取組状況について(報告書)」及び「令和8年度北海道開発局コンプライアンス推進計画(案)について」説明。

- 委員からの主な意見

- ・ 職員アンケート結果を見る限り、職員のコンプライアンスへの意識は、かなり高い水準で定着していると評価してもよいのではないかと。
- ・ 今後は、量的な目に見える取組を増やすのではなく、簡潔・簡素な取組に集約し、職員の負担を減らしていくことが必要ではないかと。取組の成果をどうやって維持させていくかということと、取組の質をどうやって向上させていくかということが大切だと思う。
- ・ アンケートの設問に関して、出来る・出来ないはあると思うが、実は小さな違反をしてしまった事例がどの程度あるのか聞いてみることで、今後、大きな事案に繋がっていくきっかけがどこにあるのかヒントや手がかりになる可能性もあるのではないかと。
- ・ 実際にやってみるとどうなるかということがわかる内部通報の模擬体験は、自分のところでも取り入れたいと思うくらい、すごく良い取組だと思う。
- ・ 職員アンケートの問4の有効な取組について年代別の回答から、若い職員には「上司からの声かけ」が有効な反面、「職場内ミーティング」はあまり効果が無いということが見て取れる。上司は忙しさもあってみんな集めて話した方が効率的だからとか、1対1だとハラスメントにならないかという不安から、複数人で話しがちなが、若い職員は実は個別に声をかけてほしいのではないだろうか。
- ・ 声かけということについて、職員がどのような認識で捉えているのか考えてみるのも良いのではないかと。例えば上司からの声かけとは、具体的にどういったものだろうということを話し合ってみるといいのではないだろうか。
- ・ 軽微な違反についてのアンケートは、個別具体的な違反の内容で聞かな

いと回答は出ないし、具体的すぎると回答者が怖くなって答えなくなるのでなかなか難しいと思う。

- ・ 非違行為事例を読むべき対象職員の整理表を配るなど、読む・読もうという意欲が沸くような取組をしているのにもかかわらず、8.8%の職員が読んだことがないと回答している。今後の改善を図るためには、読まないのは何が原因なのか、読む必要性を感じていないのか、多忙で読む時間がないのか、こういった理由があるのかを踏まえる必要がある。その理由まで分かるような設問にしても良いのではないか。
- ・ コンプライアンス通信は、すごく読みやすいし、職員に読ませる形で作られていて非常に質が高い。この出来映えで毎月の発行というのは編集者は本当に大変だと思う。
- ・ コンプライアンス通信は、読ませるような内容、書き方になっていて素晴らしいと思う。こういったコンテンツは、他にはなかなか無いと思うので作成は大変だろうが続けてほしい。
- ・ コンプライアンス推進計画は、気になるところが無いくらい完成度が上がってきている。今後、質を向上していく方向に進んでいけば素晴らしいのではないか。
- ・ 物事を理解するときには、研修や講習などを通じてダメなことを知るという理解のレベルと、ワークショップなど対話ベースで本当に理解するレベルの二つがある。知る理解と、分かる理解と言われるものだが、悪いと分かっていたけどやってしまったというような事案には、後者が大事になってくる。今後のコンプライアンス体制の充実に向けては、この分かる理解の取組が重要である。

○ 委員からの主な意見に対する当局からの回答

- ・ 非違行為事例集を読んでいない職員については、読まないのは何が原因なのか把握することを、今後検討していきたい。
- ・ 職員アンケートの回答について背景の分析や、取組の質の向上など、多岐にわたる貴重な御意見やアドバイスについては、次年度のコンプライアンスの取組に反映させて、しっかりと取り組んでいく。